

早朝の明石海峡シッフウォッチング

池田良穂

阪九フェリーの新造船「せっつ」の走航中の姿を撮影するために、明石海峡に出かけました。同船は7時10分の神戸着なので、明石海峡通過は6時少し前と推定して、5時半には淡路島北端の岩屋に到着する計画で自宅をでました。

岩屋の明石海峡大橋のたもとにある松帆アンカレイジパーク(道の駅あわじ)には5時20分に到着。ちょうど、フェリーさんふらわあの「さんふらわあごーど」が明石海峡を通過しているところでした。ただ、逆光気味でよい写真にはならず、昇る朝日をバックにしたシルエットを撮影できました。

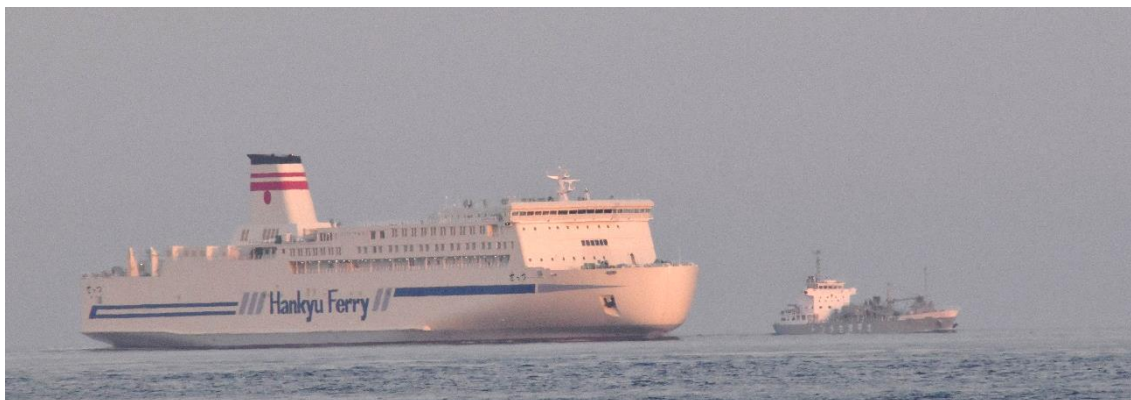
淡路島の先端を西に少し移動して、江崎灯台の近くで「せっつ」を待つことにしました。予想通り、5時50分頃、「せっつ」が目の前を通過していきました。ほとんど波も立てずに、滑るように走るさまは、さすがに「高性能船!!」と感動しました。

この場所に1時間ほど待機して、名門大洋フェリーの「フェリーきたきゅうしゅうII」の姿も見て、帰宅しました。

接触者数ゼロの「コロナフリー」の撮影行でした。県外ナンバーなので心配しましたが、石を投げつけられることもありませんでした。



昇る朝日に向かって航行する「さんふらわあごーど」の姿です。



阪九フェリーの「せっつ」が、内航セメントタンカーを追い抜く瞬間です。ほぼ全速で走っているのに波がほとんど立っていません。



明石海峡に入る直前の「せつ」の姿です。



約1時間後、名門大洋フェリーの「フェリーきたきゅうしゅうⅡ」が目の前を通過していきました。